

# 趙国古都 趙王が眠る文化都市 — 邯鄲市 かんたん

## ・位置

邯鄲市は中国河北省の南部、北京から南に450キロの場所に位置し、山西省、山東省、河南省の3省と境を接するところにあります。

総面積は1.2万平方メートルで、人口は約1050万人です。西には太行山脈がそびえ、東には華北平原が広がっています。豊かな自然に恵まれています。

高速鉄道では2時間、普通列車では4時間ほどで北京から着くことができます。邯鄲空港は邯鄲市中心部から南西に11kmのところにあります。上海、広州、深セン等からの便が就航しています。



## ・歴史

邯鄲市は戦国時代の趙（紀元前403年～紀元前228年）の首都として中国のなかでも有名な古都で、悠久の歴史を感じさせます。邯鄲市は始皇帝の出身地でもあります。この町にちなんだ物語が多く今にも伝えられています。とりわけ「邯鄲の夢」、「邯鄲の歩み」などの故事によって有名です。「邯鄲の歩み」は他人を真似したことで本質を見失ってしまうということわざで、実際に「学歩橋」もあり、大勢の観光客が橋の上を歩いています。

清（1636年～1912年）の時代、邯鄲市の広府は陳式太極拳から分派した「楊式」と「武式」2つの流派の発祥地でした。広府の町は2000年の歴史があり、高さ約12mの城壁が町を取り囲んでいます。広府は武術を学ぶ気風に満ち、古城の城壁の上や堀のほとりでは人々が熱心に太極拳を練習しています。「太極拳の聖地」として国内外に名を馳せま



## ・ 観光地

1. 趙王城跡：趙王城跡は邯鄲市の中心部から西南約4 kmに位置して戦国時代の趙の宮殿建築群の遺跡です。中国で現存する唯一の戦国時代の古都の遺跡で、東・西・北の3城に分れていて「品」字形を成します。総面積は512万㎡（紫禁城の約5倍の面積）です。（下図：趙王城跡公園）



2. 武靈叢台：邯鄲市中心の叢台公園に位置しています。武靈王（紀元前340年～紀元前295年）は趙を戦国の七雄と呼ばれる強国にした人で、軍事操練と歌舞の観閲のために武靈叢台を建造しました。古城を一望すれば、樓閣園林・湖光山色がことごとく目に入ります。台の西方にある小さな湖の湖心に望諸樹があります。

3. 黄梁夢呂仙祠：「邯鄲の夢」という言葉を耳にしたことのある人は多いでしょう。黄梁夢呂仙祠はその故事を基にした祠です。邯鄲市の中心部から北10 kmに位置し、呂翁祠とも言います。「邯鄲の夢」の故事は唐代の沈既濟（約750～800年）の小説『枕

中記』に由来し、敷地 1 万 3000 m<sup>2</sup> 余りで、北壁に「邯鄲の夢」の故事が描かれています。



### ・邯鄲名物

- ① 「一簍油水餃子」：戦国時代の将軍廉頗が生み出した水餃子で、名物料理として残っています。
- ② 「臨洺関ロバ肉ソーセージ」：清朝の末年にまで遡り、100 年以上の歴史があります。
- ③ 「お酒」：趙王酒、叢台酒。



作成：2017 年 中国大学生インターンシップ生  
(河北大学) 霍 瑞田